

| | | | | | | | |
|----------------|----|----|---------|-----------|------|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0101 | | |
| 教科 | 国語 | 科 | 科目 | 現代の国語 | 単位数 | 2 | 単位 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|---|-------------------------------------|
| <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 新編現代の国語（東京書籍） |
| 補助教材 | 基本の現代文（尚文出版） 実践文字カトリプルチェック（尚文出版） |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <p>実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。</p> | <p>「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p> | <p>言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p> |
| 評価方法 | <p>定期考査・小テスト・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ 資格試験・ノートやワークシート の内容</p> | <p>定期考査・小テスト・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ 資格試験・ノートやワークシート の内容・自己評価</p> | <p>学習態度・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ ノートやワークシートの内容・ 自己評価</p> |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|----------|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 自己を見つめる | 筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。意見の根拠を的確に理解して、筆者の主張をつかむ。 | ○ | ○ | ○ |
| | 他者に出会う | 評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。また、日本文化について興味関心を持ったことを、2分程度でスピーチする。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 言葉と生活 1 | 自分の決めたテーマに沿って、自分の経験を振り返ったり、人から話を聞いたりして、構成を工夫して意見文を書く。 | | ○ | ○ |
| | 視野を広げる | 色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 | ○ | ○ | ○ |
| | 社会と関わる | 「憧れの職業」について調べ、自分の希望を人に伝えるための文章の書き方を確認する。 | | ○ | ○ |
| 三学期 | 未来に目を向ける | 人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。 | ○ | ○ | ○ |
| | 世界とつながる | 芸術や歴史の真実に触れ、周囲に広がる世界への理解を深める。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|--|
| <p>言葉を的確に操ることはコミュニケーションの基本です。自分の考えが他者に適切に伝わるように、知識を身に付け、表現力を高めていきましょう。</p> |

開拓精神

鹿児島県立頴娃高等学校

| | | | | | | | |
|----------------|----|----|---------|-----------|------|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0102 | | |
| 教科 | 国語 | 科 | 科目 | 言語文化 | 単位数 | 2 | 単位 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|--|--------------------------------------|
| <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 新編言語文化（東京書籍） |
| 補助教材 | 基本の現代文（尚文出版） |
| | 基本の古典（尚文出版） 国語必携ライトパーフェクト演習（尚文出版） |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|--|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |
| 評価方法 | 定期考査・小テスト・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ 資格試験・ノートやワークシート の内容 | 定期考査・小テスト・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ 資格試験・ノートやワークシート の内容・自己評価 | 学習態度・提出物の状況 パフォーマンスの出来映え・ ノートやワークシートの内容・ 自己評価 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|---------------|--|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 1 随筆 生きる喜び | 日本独特の桜に対する感性について理解を深める。また、古典の常識について興味をもつ。 | ○ | | ○ |
| | 1 古文入門 古文の世界へ | 歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 | ○ | | ○ |
| | 2 随筆 日々の思い | 叙述を的確に捉え、教材について、作者は伝聞したことや自分の考えをどのようにまとめているかを考える。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 1 漢文入門 訓読の基本 | 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 | ○ | | ○ |
| | 4 小説 葛藤する心 | 極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考え発表する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 4 物語 古人の生き方 | 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。和歌は重要なコミュニケーションツールであったことを確認する。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 3 詩歌 命をうたう | 短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 | ○ | ○ | ○ |
| | 1 漢文入門 故事成語 | 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| 我が国の伝統的な文化を継承すべく、基礎知識から学びましょう。 また、文学的な文章を読み味わい、登場人物の心情に迫りましょう。 |

開拓精神

鹿児島県立頰娃高等学校

| | | | | | |
|----|------|----|---------|------|------|
| 令和 | 7 | 年度 | 学習シラバス | 整理番号 | 0201 |
| 教科 | 地理歴史 | 科 | 科目 | 地理総合 | 単位数 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | 2 |
| | | | | | 単位 |

学習到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を迫り解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

使用教材

| | |
|------|---|
| 教科書 | わたしたちの地理総合 世界から日本へ（二宮書院） 基本地図帳（二宮書院） |
| 補助教材 | わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書院） |

目指す力と評価

| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
|-------|---|--|---|
| 評価の観点 | 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 |
| 評価方法 | ○ 確認テスト ○ 定期考査 ○ 作図・読取課題 ○ 観察評価・提出物 | ○ 確認テスト ○ 定期考査 ○ 作図・読取課題 ○ 観察評価・提出物 | ○ 確認テスト ○ 定期考査 ○ 作図・読取課題 ○ 観察評価・提出物 |

年間学習計画

| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
|-----|--|---|-------|---|---|
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 1章 地図とGISの利用 1 球面上の世界 2 国家の領域と領土問題 3 国内や国家間の結びつき 4 日常生活の様々な地図 2章 生活文化の多様性 1 自然環境と生活文化 | <ul style="list-style-type: none"> 球体としての地球の基本的な仕組みを理解する。 時差計算の技能を身に付ける。 領有権の問題や海洋資源の利用について考える。 統計地図やグラフの作り方を理解する。 資料から読み取る技能を身に付ける。 地形の形成とその広がりを理解する。 地形と対応した人々の生活と取り巻く環境の変化について考える。 気候の地域性をケッペンの気候区分で捉え、人々の生活文化との関わりを資料から考える。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 2 産業の発展と生活文化 3 言語・宗教と生活文化 4 グローバル化の進展 3章 地球的課題と国際協力 1 人口・食料問題 2 居住・都市問題 3 資源・エネルギー問題 4 地球環境問題 | <ul style="list-style-type: none"> 産業の発達と生活文化について理解する。 宗教、言語の分布や人々の関わり、分布を示す要因について、資料を通じて理解する。 多民族社会と地域統合について理解する。 仏教、キリスト教、イスラム教の文化圏について考える。 農業や鉱業などの産業の多様性について考える。 人口問題の背景や問題を整理する。 人口が集まる都市内部の構造を理解する。 地球規模で起きる資源の問題を認識する。 地球環境問題の影響と解決について考える。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 4章 生活圏の諸課題 1 自然環境と防災 2 持続可能な地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> 日本列島の地形と気候の特徴、自然災害について理解する。 日本が抱える地域的な課題について、調査・分析・まとめの技能を身に付ける。 | ○ | ○ | ○ |

担当者からのメッセージ

・写真やグラフなどを活用し、多様な角度から地理的事象を捉えられるようにする。
・それぞれの地理的事項に関して、常に理由や原因を探究する気持ちで授業に臨む。

開拓精神

| | | | | | |
|----|------|----|---------|------|------|
| 令和 | 7 | 年度 | 学習シラバス | 整理番号 | 0205 |
| 教科 | 地理歴史 | 科 | 科目 | 歴史総合 | 単位数 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | 2 |
| | | | | | 単位 |

| 学習到達目標 | |
|--|--------------------------------|
| <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来（第一学習社） |
| 補助教材 | 学習事項の整理と作業 新歴史総合ノート（第一学習社） |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|--|---|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査、単元テストの結果 学習状況の観察 提出物の内容 学習成果の発表内容 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査、単元テストの結果 学習状況の観察 提出物の内容 学習成果の発表内容 | <ul style="list-style-type: none"> 出欠状況 学習態度 学習状況の観察 自己評価 提出物の内容と提出状況 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|---------------------|--|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 第1部 歴史の扉 | <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。 18世紀のアジアの経済と社会を理解し、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目する。 アジア諸国と欧米諸国との関係の変容、帝国主義がアジア・アフリカに与えた影響に着目して、その特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第2部 近現代の世界と日本 | | | | |
| 二学期 | 第1章 近代化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の外交などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦後の影響などに着目して、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち | | | | |
| 三学期 | 第3章 グローバル化と私たち | <ul style="list-style-type: none"> 冷戦、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第4章 現代社会と私たち | | | | |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 資料（史料）を活用し、多様な角度から歴史的事象を捉えられるようにする。 歴史的事項に関して、探究する気持ちで授業に臨む。 |

開拓精神

鹿児島県立頤娃高等学校

| | | | | | | | |
|----------------|----|----|---------|------|------|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0401 | | |
| 教科 | 数学 | 科 | 科目 | 数学 I | 単位数 | 3 | 単位 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|---|-------------------------------------|
| 数と式，集合と論証，二次関数，図形と計量，データの分析について基本的な知識や技能，数学的に考察する力，数学を活用しようとする態度を身に付ける。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 数学 I Standard (東京書籍) |
| 補助教材 | Standard Buddy WRITE 数学 I +A (東京書籍) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|--|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学的に解釈したり，数学的に表現・処理している。 | <ul style="list-style-type: none"> 数学を活用して論理的に考えたり，統合的・発展的に考えている。 数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり，数学的論拠に基づいて判断している。 解決の過程を振り返って考えを深めたり，改善しようとしている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 小テスト 定期考査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 定期考査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 授業に参加する態度 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 提出物(宿題や課題プリント等)の取組内容および提出状況 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|-----------|----------|--|---|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 1章 数と式 | <ul style="list-style-type: none"> 乗法公式や因数分解の公式の理解を深める。 簡単な無理数の四則計算をする。 不等式の性質を理解し，一次不等式の解を求める。 | ○ | ○ | ○ |
| | 2章 集合と論証 | <ul style="list-style-type: none"> 集合と命題の基本的な概念を理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 3章 二次関数 | <ul style="list-style-type: none"> 二次関数のグラフの特徴を理解する。 二次関数の最大値，最小値を求める。 二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求める。 | ○ | ○ | ○ |
| | 三学期 | 4章 図形と計量 | <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比と相互関係を理解する。 鈍角の三角比を求める方法を理解する。 正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 | ○ | ○ |
| 5章 データの分析 | | <ul style="list-style-type: none"> 分散，標準偏差，相関係数の意味や使い方を理解する。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し，ペア活動やグループ活動を含め主体的に取り組みましょう！ 基礎・基本をしっかりと学習し，練習問題を自分の力で解く習慣をつけましょう！ |

開拓精神

鹿児島県立頴娃高等学校

| | | | | | | |
|----------------|------|---------|-----|-----|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | 整理番号 | 0407 | | | | |
| 教科 | 数学 科 | 科目 | 数学A | 単位数 | 2 | 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|---|------------------------------------|
| 場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 数学A Standard (東京書籍) |
| 補助教材 | Standard Buddy WRITE 数学 I+A (東京書籍) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|--|--|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を身に付けている。 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 小テスト 定期考査または単元テストの結果 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 定期考査または単元テストの結果 | <ul style="list-style-type: none"> 授業に参加する態度 学習状況の観察 ノートや演習プリントの記述 提出物(宿題や課題プリント等)の取り組み内容および提出状況 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|--------------------------|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数 | <ul style="list-style-type: none"> 有限集合の和集合・補集合の要素の個数、及び和の法則や積の法則について、図表示などを利用しながら、場合の数を求めることができる。 順列の意味を理解し、その総数nPrや階乗の計算することができる。 組合せの意味を理解し、その総数nCrを、順列との関係によって求めることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 2節 確率とその基本性質 | <ul style="list-style-type: none"> 試行と事象、根元事象などの定義を知り、事象の確率の求め方を理解するとともに、その確率を求めることができる。 積事象・和事象、排反事象、確率の基本性質、確率の加法定理、和事象の確率、余事象とその確率について理解し、これらを利用して確率を求めることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 3節 いろいろな確率 | <ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の確率について、具体例を通してその意味を理解する。 独立な試行の典型的な例である反復試行の確率を理解し、反復試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し、具体的な事象を数学的に考察することができる。 期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 2章 図形の性質 1節 三角形と比 | <ul style="list-style-type: none"> 三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解する。 チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 2節 円の性質 | <ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形の定理と四角形が円に内接する条件の定理について理解する。さらに、接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 3節 空間図形 | <ul style="list-style-type: none"> 空間における2直線・2平面の位置関係やなす角、及び平面の決定条件などについて理解する。 空間における直線と平面の位置関係が垂直である場合について考察し、三垂線の定理を理解する。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、ペア活動やグループ活動を含め主体的に取り組ましよう! 基礎・基本をしっかり学習し、練習問題を自分の力で解く習慣をつけましよう! |

開 拓 精 神

| | | | | | |
|----------------|------|---------|---------|------|------|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0501 |
| 教科 | 理 科 | 科目 | 科学と人間生活 | 単位数 | 2 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | | |

| 学習到達目標 | |
|---|----------------------------|
| <p>自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 科学と人間生活 (実教出版) |
| 補助教材 | アクセスノート 科学と人間生活 新課程 (実教出版) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|---|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <p>自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について観察、実験などを通して理解し、知識を身に付けている。基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。</p> | <p>自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について問題を見だし、観察、実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p> | <p>自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。</p> |
| 評価方法 | 発問評価 定期考査 レポート | 発問評価 定期考査 レポート | 授業態度 発問評価 レポート |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|-------------------------|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 第1章 科学技術の発展 | ・科学技術の進歩・発展を、情報・通信技術を例にして、人間生活に果たしてきた役割を学ぶ。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第2章 物質の科学 材料とその再利用 | ・プラスチック、金属、セラミックスが、それぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解させる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第3章 生命の科学 ヒトの生命現象 | ・植物の育成と光、ヒトの視覚と光、動物の行動と光について学び、生物の活動と光との関係を理解させる。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 第3章 生命の科学 ヒトの生命現象 | ・植物の育成と光、ヒトの視覚と光、動物の行動と光について学び、生物の活動と光との関係を理解させる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第4章 熱や光の科学 熱の性質とその利用 | ・熱の性質とその利用、エネルギーについて学び、エネルギーの移り変わりなどについて理解させる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第5章 宇宙や地球の科学 太陽と地球 | ・身近な天体の姿や運行について学び、人間生活との関連について学ぶ。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 第5章 宇宙や地球の科学 太陽と地球 | ・身近な天体の姿や運行について学び、人間生活との関連について学ぶ。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第6章 これからの科学と人間生活 | ・課題の設定と研究の進め方を学ぶ。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| <p>日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもちましょう。学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけましょう。</p> |

開 拓 精 神

鹿児島県立頤娃高等学校

| | | | | | | |
|----|--------|---------|-----------|-----|---|----|
| 教科 | 保健体育 科 | 科目 | 体育 | 単位数 | 3 | 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 | | | |

学習到達目標

- 体づくり運動・・・自己の体力に応じて、体ほぐしを行い、体力を高めることができる。
- 球技・・・各球技に必要な技術の獲得、個々の能力に応じた課題解決を目指して計画的に練習に取り組む能力を身につける。
- 陸上競技・・・自己の体力に応じたペースで走る能力を身につける。
- 体育理論・・・各項目においてどのような位置づけや内容があるかを理解できる。

使用教材

| | |
|------|--|
| 教科書 | 現代高等保健体育（大修館書店） |
| 補助教材 | ステップアップ高校スポーツ2025（大修館書店） 現代高等保健体育ノート（大修館書店） |

目指す力と評価

| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
|-------|---|--|--|
| 評価の観点 | ○運動の合理的、計画的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。 | ○自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて課題に応じた運動の取り組み方や、目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。 | ○運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | ・授業への取り組み姿勢 ・スキルテスト・小テスト ・学習カードの記入 | ・授業への取り組み姿勢 ・ワークや実技の状況 ・学習カードの記入 | ・授業への取り組み姿勢 ・学習カードの記入 ・自己評価 |

年間学習計画

| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
|-----|-------------------|---|-------|---|---|
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 体づくり運動 | ・自分の心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合う。 ・体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組む。 | ○ | ○ | ○ |
| | 体育理論 | | ○ | ○ | ○ |
| | バレーボール | ・個人的技能、集団的技能を習得する。 ・個人的技能、集団的技能を活用し、チームにあった作戦を立て、守りから攻撃への連携を生かしたゲームができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | バスケットボール | ・個人的技能、集団的技能を習得する。 ・個人的技能、集団的技能を活用し、チームにあった作戦を立て、守りから攻撃への連携を生かしたゲームができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 陸上競技 短距離・リレー | ・中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることができる。 ・バトンの受け渡しで次走者のスピードを十分高めることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 陸上競技・長距離走 体育理論 | ・目標タイムに応じたペースで走ることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | バドミントン | ・個人的技能を習得する。 (ハイクリア、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、サービス等) ・既習の技能を活用して、シングルス、ダブルスのゲームができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 体育理論 | | ○ | ○ | ○ |

担当者からのメッセージ

体育の授業の流れをつかみ、明るく元気に取り組みましょう。

開 拓 精 神

| | | | | | |
|----|--------|---------|-----------|-----|------|
| 教科 | 保健体育 科 | 科目 | 保健 | 単位数 | 1 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 | | |

学習到達目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次の通り育成する。

使用教材

| | |
|------|--------------------|
| 教科書 | 現代高等保健体育（大修館書店） |
| 補助教材 | 現代高等保健体育ノート（大修館書店） |

目指す力と評価

| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
|-------|--|--|---|
| 評価の観点 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする。 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。 |
| 評価方法 | ・授業への取り組む姿勢 ・ノートの点検 | ・授業への取り組む姿勢 ・ワークの状況 ・ノートの点検 | ・授業への取り組む姿勢 ・自己評価 |

年間学習計画

| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
|-----|--|--|-------|---|---|
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 1 単元 現代社会と健康 ・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防、治療と回復 ・運動と健康、食事と健康 ・休養・睡眠、喫煙と健康 | 現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方について個人や社会に求められることについて理解を深める。様々な問題について、例を挙げて説明ができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴と予防、回復 ・感染症と予防 ・性感染症とエイズとその予防 ・健康に関する意思決定と行動選択 ・健康に関する環境づくり | 現代の健康問題や新しい時代の健康の考え方について個人や社会に求められることについて理解を深める。様々な問題について、例を挙げて説明ができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 2 単元 安全な社会生活 ・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 | 安全は誰もが享受するべきものであるため、交通事故や自然災害、犯罪などへの意識の高揚を図るとともに、応急手当に関する知識や技能を高める。 | ○ | ○ | ○ |

担当者からのメッセージ

生涯にわたって役立つ知識を身につけよう。

開 拓 精 神

| | | | | | |
|----|------|---------|-----------------|------|------|
| 令和 | 7 | 年度 | 学習シラバス | 整理番号 | 0701 |
| 教科 | 芸術科 | 科目 | 音楽Ⅰ | 単位数 | 2 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 音楽選択者 | | |

| 学習到達目標 | |
|---|-----------------------------|
| ①歌唱、器楽、創作による表現活動及び鑑賞活動の幅広い活動を通じて、音楽を愛好する心情を育成する。 ②音楽の良さを感じ取り、自己の感じ取ったイメージを様々な形で表現し、聞き手に伝える表現力を伸長する。 ③我が国や諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性や良さを感じ、多様な音楽観の育成をはかる。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | MOUSA 1 (教育芸術社) |
| 補助教材 | Music Note (啓隆社) 各種プリント等 |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|---|------------------------------------|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | ○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音の多様性について理解している。 ○創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け歌唱、器楽、創作で表している。 | ○音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさ自ら味わって聴いたりしている。 | ○主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | ・授業に取り組む態度 ・学習状況の観察 ・提出状況 ・探求活動の表現 | ・学習状況の観察 ・探求活動の表現 ・個性を生かした表現 | ・学習状況の観察 ・探求活動の表現 ・個性を生かした表現 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|--|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | ○声を重ねて ○器楽①〈キーボード〉 ○音楽理論 ○オペラの世界〈鑑賞〉 | ○正しい姿勢や発声法を身につけ、表情豊かに表現する。 ○基本的な奏法や様々な奏法を習得し、アンサンブルをする。 ○音符や休符等、音楽記号を理解する。 ○オペラの特徴や形式作品について知る。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | ○歌曲の魅力 ○オーケストラの魅力 ○器楽②〈ヴァイオリン〉 ○ミュージカルの世界〈鑑賞〉 | ○歌詞の読み方と意味を理解し、表情豊かに表現する。 ○オーケストラについて理解させる。 ○ヴァイオリンの基本的な奏法を習得し、楽曲を演奏する。 ○ミュージカルの作品やその特徴について知る。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | ○器楽③〈ギター〉 ○器楽④〈和楽器・箏〉 ○作品発表 | ○基本的な奏法を習得し、楽曲を演奏する。 ○和楽器の基本的な奏法を習得し、楽曲を演奏する。 ○楽曲の演奏や鑑賞をする。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| 音楽への愛や音楽によって人間を高めていくこと、音楽の持つ力や素晴らしさを知る。 |

開拓精神

鹿児島県立頴娃高等学校

| | | | | | |
|----------------|------|---------|-----------------|------|------|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0703 |
| 教科 | 芸術科 | 科目 | 美術 I | 単位数 | 2 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 美術選択者 | | |

| 学習到達目標 | |
|--|-------------------|
| <p>ものをつくる楽しさ、自分だけの表現を追求することの面白さ、また表現された内容を深く味わい、他者の個性を尊重することの大切さを学び、美術作品と美術を通したコミュニケーションに対する関心を深め、愛好する態度を養う。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 高校生の美術 1 (日本文教出版) |
| 補助教材 | 自作プリント等 |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|--|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫して表している。 | 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組もうとする。 |
| 評価方法 | 学習状況の観察 探求活動の表現 個性を生かした表現 | 授業に取り組む態度 学習状況の観察 提出状況 探求活動の表現 | 授業に取り組む態度 学習状況の観察 提出状況 探求活動の表現 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|--------------|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | ○文字のデザイン | ○自分のイメージに合った文字のデザインや配色を考える。 ○アクリルガッシュの使い方を理解し、彩色する。 | ○ | ○ | ○ |
| | ○静物を描く (油彩) | ○油彩画の基本的な技法を習得する。 ○静物の基本的な形を捉える。 ○質感の表現を工夫する。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | ○浮き彫りによる手の表現 | ○丸彫りと浮き彫りの違いを理解する。 ○彫刻刀による基本的技法を知る。 ○手をよく観察し、表現に繋げる。 ○立体感や質感などの表現の工夫をする。 | ○ | ○ | ○ |
| | | | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | ○堆朱ストラップをつくる | ○日本の伝統工芸の良さを理解する ○完成度を上げるよう務める。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|--------------------------------|
| 色や形を使って、自分の思いや考えを明るく前向きに表現しよう。 |

開拓精神

鹿児島県立穎娃高等学校

| | | | | | |
|----------------|------|---------|-----------------|------|------|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0705 |
| 教科 | 芸術科 | 科目 | 書道 I | 単位数 | 2 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 書道選択者 | | |

| 学習到達目標 | |
|--|------------|
| ①小・中学校国語科書写の学習を基礎として、表現及び鑑賞などの書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てる。 ②書に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。 ③書的美しさを感じるとる鑑賞の基礎的な能力を育てる。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 書 I (光村出版) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|--|---|---|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | ○日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっている。基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 | ○書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | ○書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組みようとする。 |
| 評価方法 | ・学習状況の観察 ・作品等の提出状況や内容 ・小テスト | ・学習状況の観察 ・提出作品の内容 ・制作活動の観察、発表 | ・授業に取り組む態度 ・学習状況や制作活動の観察 ・作品等の提出状況や内容 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|--------------------------------|---|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | ○書へのいざない ○硬筆 ○漢字の書の学習(1) | ○書の分野と学習意義、用具や用材、表現方法等を理解する。 | ○ | | ○ |
| | | ○硬筆の用具や基本を理解し、文字の調和を考えて書く。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ○漢字の古典を鑑賞し、書体の変遷や多様な表現を習得する。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ○楷書古典の臨書学習を習得する。 ○小楷の執筆法を学び、実用的な書に生かす。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | ○漢字の書の学習(2) ○篆刻を学ぶ | ○楷書と行書の違いを踏まえ、行書の特徴を理解する。 | ○ | | ○ |
| | | ○臨書や鑑賞を通して、行書の用筆法や運筆法等を習得する。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ○字典の利用方法、古典からの集字方法を習得する。 | ○ | | ○ |
| | | ○古典や近代の作品を参考に構成を考え、行書を創作する。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | ○仮名の書の学習 ○漢字仮名交じりの書 | ○作品における落款と印の役割について理解する。 | ○ | | ○ |
| | | ○篆書を半紙に大きく書き、特徴をつかむ。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ○姓名印を作成する。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ○仮名の成立、変遷独特の筆使い基本用筆について学ばせる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | ○漢字仮名交じりの書 | ○単体、変体仮名、連綿の方法を理解する。 | ○ | | ○ |
| | | ○書の幅広い表現方法を理解する。 ○語句・毛筆・硬筆・紙を選び、古典を生かして表現する。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|-------------------------|
| 芸術書道の技法を理解し、多彩な表現を楽しもう。 |

開拓精神

| | | | | | | | |
|----------------|-----|----|---------|---------------|------|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 0801 | | |
| 教科 | 外国語 | 科 | 科目 | 英語コミュニケーション I | 単位数 | 3 | 単位 |
| 学年 | 1 | 学年 | 学科・コース等 | 普通科・機械電気科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|---|---|
| <p>日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、場面や状況に即して英語で話したり、書いて表現したりすることができる。日々の学習を通じて言語の背景にある文化や価値観について理解を深め、自己と他者（異文化）を尊重し、共生する態度を涵養する。</p> | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | COMET English Communication I (数研出版) |
| 補助教材 | ベーシックジーニアス英和辞典 第3版 (大修館) COMET English Communication I ベーシックノート (数研出版) COMET 基本英文法定着ドリル1 (数研出版) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|---|---|---|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。 | 日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 | 主体的、自律的に英語を使い、コミュニケーション能力を身につけようとするとともに、自己と他者（異文化）を尊重し、共生する態度を身につけている。基本的な学習方法を身につけ、日々の学習に活用することができる。 |
| 評価方法 | 授業における取り組みや小テスト、単元テスト、定期考査等 | 各単元や授業における各種活動の成果やパフォーマンステスト、単元テスト、定期考査等 | 授業や単元の活動に取り組む姿勢や課題等の提出状況等 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|-------------------|--|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 高校英語入門 | 英語の基本語順を意識して英文を作ろうとすることができる。辞書の仕組みや活用方法を理解するとともに、必要最小限の文法用語の意味を理解し、活用することができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 教科書を使ってみよう | 教科書やワークシート、補助教材を自身の向上のために活用したり、学んだことを応用することができる。 | | ○ | ○ |
| 二学期 | 発音トレーニング | カタカナでは代用できない英語特有の音を聞き取ったり、発音することができる。 | ○ | | ○ |
| | Show & Tellに挑戦 | 与えられたテーマで自分のアイディアや考えを英語の文章にまとめることができる。聞き手が理解できるように工夫して発表することができる。 | | ○ | ○ |
| | 英語を英語で伝えよう | 「話法」や「間接疑問」について理解し、聞いたり読んだりした情報を第三者に的確に伝えることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 疑問文の基礎とchat (帯活動) | 疑問文の語順に習熟し、英語で質問したり、会話を持続させるための方策を身につけ、使うことができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | 意見発表 | 与えられた課題を解決するための方法を発表し、相互に意見交換や情報交換をすることができる。 | | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| 授業で学んだことを日々の自分の学習に活かすように心がけましょう。言語学習は継続が不可欠です。「少しずつ」を「毎日」続けることが上達につながります。 |

開拓精神

鹿児島県立頴娃高等学校

| | | | | | | |
|----------------|------|---------|------|-----|---|----|
| 令和 7 年度 学習シラバス | 整理番号 | 0901 | | | | |
| 教科 | 家庭 科 | 科目 | 家庭総合 | 単位数 | 2 | 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | | | |

| 学習到達目標 | |
|---|----------------------|
| 1 自立した生活を営むために、今までの自分を知り、生涯を見通した自分らしい人生設計を立てる力を育成する。 2 被服の手入れや購入・製作に必要な知識や技術を身に付け、主体的に衣生活をつくっていく力を育成する。 3 環境に配慮しながら有限である資源を生かした経済生活・消費生活を営むことの重要性について理解するとともに、現代社会における消費者問題について知識とその対処方法を学ぶ。 4 家庭や地域社会の役割について考えるとともに、社会保障について知る。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|--|--|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、衣生活、経済生活、共生に関する知識や、適切な情報を収集・整理するなどの技術を総合的に身につけている。 科学的な根拠に基づいて課題を理解し、解決する能力を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、衣生活、経済生活、共生について、その充実向上を目指して課題を発見し、その解決を目指して思考を深め、適切な情報を収集することができる。 課題解決に向けて、工夫し創造する能力を身につけ、論理的に表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、衣生活、経済生活、共生について関心を持ち、その充実向上を目指して実践的な態度を身につけ、主体的に取り組もうとしている。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 小テスト 定期考査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査の結果 | <ul style="list-style-type: none"> 授業に取り組む態度 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 プリント等の内容・提出状況 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|----------------------------|--|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | ・家庭科を学ぶにあたって 第1章 生涯を見通す | ・ライフステージごとの発達課題を把握し、青年期の発達課題を踏まえた上で目標を設定する | ○ | ○ | ○ |
| | 第2章 人生をつくる | ・夫婦、親子関係で男女が互いに尊重した生き方について知る。 ・男女共同参画社会への働きや、ワーク・ライフ・バランスを踏まえ、働き方を考える。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第7章 衣生活をつくる | ・被服の役割及び被服の構成について理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | ・ホームプロジェクト | ・課題解決学習(暮らしの中に課題を見つけて解決する学習) | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 第7章 衣生活をつくる | ・基本的な縫い方や道具の扱い方について技術を習得できる。 ・被服実習を通して、手作りする喜びや楽しみを体験する。 ・被服の手入れについて理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第9章 経済生活を営む | ・衣生活における環境への負荷や、大量消費社会について考え、私たちにできる配慮について理解する。 ・契約の重要性と、消費者の権利と責任について理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第9章 経済生活を営む | ・第1章を振り返り、働き方について考えることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| 三学期 | 第11章 共に生き、共に支える | ・計画的な家計管理の在り方を考える。 ・国民経済・国際経済と家庭の経済生活の関連性に気が付く。 ・社会保障について基本的な仕組みを知り、共生社会について理解し、自らのこととして考えることができる。 | ○ | ○ | ○ |
| | | | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|---|
| 日常生活の中の家庭分野興味をもち、課題を見つけ、その課題を解決するための知識や技術を習得する態度を身につけましょう。学んだことを実際の生活の中で生かしていきましょう。 |

開 拓 精 神

| | | | | | |
|----------------|------|---------|------|------|------|
| 令和 7 年度 学習シラバス | | | | 整理番号 | 1001 |
| 教科 | 情報科 | 科目 | 情報 I | 単位数 | 2 単位 |
| 学年 | 1 学年 | 学科・コース等 | 普通科 | | |

| 学習到達目標 | |
|---|---------------------|
| 情報や情報技術を活用するための知識や技能、適切かつ効果的に活用する力、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。 | |
| 使用教材 | |
| 教科書 | 情報 I 図解と実習 (日本文教出版) |

| 目指す力と評価 | | | |
|---------|--|---|--|
| | a. 知識および技能 | b. 思考力・判断力・表現力 | c. 主体的に学習する態度 |
| 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 情報デザイン、コンピュータの仕組み、データの活用などについて理解している。 情報に関する法律やマナーを理解し、身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 目的や状況に応じてコミュニケーションの手段を適切に選択している。 目的に応じてプログラムを作成したり、データを活用している。 | <ul style="list-style-type: none"> 法律やマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度を身に付けている。 情報社会に主体的に参画する態度を身に付けている。 |
| 評価方法 | 小テスト、ワークシート、実習 | 小テスト、ワークシート、実習 | ワークシート、実習 |

| 年間学習計画 | | | | | |
|--------|--------------------------|--|-------|---|---|
| 学期 | 単元 | 学習内容および到達目標 | 評価の観点 | | |
| | | | a | b | c |
| 一学期 | 第1章 情報社会とわたしたち | 情報モラル、情報セキュリティの重要性、情報に関する法律を理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第2章 コミュニケーションと情報デザイン | メディアとコミュニケーション手段の特徴、情報デザインの考え方や方法を理解する。 | ○ | ○ | ○ |
| 二学期 | 第3章 コンピュータとプログラミング | 二進法による表現、文字や画像などのデジタル化の仕組みを理解する。 コンピュータの基本的な構成、演算の仕組みを理解する。 アルゴリズムをフローチャートで表現する方法や、プログラムの構造を理解し、プログラミングをする。 モデル化、シミュレーションを行う。 | ○ | ○ | ○ |
| | 第4章 情報通信ネットワークとデータの活用 | 情報通信ネットワークの構成要素、情報セキュリティ、データベースの仕組みを理解する。 データの収集、整理、分析、結果の表現の方法を理解する。 | ○ | ○ | ○ |

| 担当者からのメッセージ |
|-------------------------------------|
| 教科書は「図解編」「実習編」に分かれています。両方持ってきてください。 |

開 拓 精 神

鹿児島県立額娃高等学校